

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者 西 牧 泰 彦
編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会

『今の体験を未来に活かす』

下郷町教育委員会教育長

湯田 嘉朗

2019年、新型コロナウイルスが発生し、またたく間に感染拡大してパンデミックを引き起こした。日本でも、2020年3月、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い全国一斉臨時休業が要請された。年度の改まった4月には、大都市圏に非常事態宣言が発令され、その動きは徐々に地方へと拡大していった。ウィズコロナ時代の感染防止対策として「密閉・密集・密接」の3つの密を避ける生活様式が示され、「ソーシャルディスタンスを保つ。真正面での会話や食事を避ける。マスクを着用する。うがいや手洗い・手指消毒をする。県外や感染拡大地域へ不要不急の移動をしない。」などが求められた。

教育活動の場は、「密閉・密集・密接」そのものである。この2年間、学校では教育活動への制約を行い、徹底して感染拡大防止に努めてきた。それに伴い、多くの学校行事が延期または中止を余儀なくされた。そのような状況下で

あっても、前向きに学び遅く成長している子供たちの姿に頼もしさを感じることができた。先生方の見守り・支え・育てるという丁寧な指導に感謝したい。

2022年を迎えた今、ワクチンの接種、治療薬の開発は進んでいるものの、新型コロナウイルスは新たな変異株の出現とともに依然としてパンデミックは続いている。

ウイルスは細胞に感染して増殖することは誰もが知っていることである。改めて、感染防止対策としての「新しい生活様式」を徹底していくことが最善の道である。

人類は過去に幾度もパンデミックを経験し、困難を乗り越え耐え抜いてきた。子供たちが将来、現在のパンデミックの経験やそれを克服する術を共有し、未来に活かしてほしい。

1日も早くコロナ禍以前の生活様式へ戻れることを願う日々である。

『スマホとテレビとワールドカップ』

福島県教育庁南会津教育事務所
総務次長兼総務社会教育課長

本多 智洋

教育事務所に異動し、単身赴任中の私は、家にいる時はスマホを操作しつつテレビを見ていることが多い。

スマホ（電話）と言えば、私の家に初めて電話（ダイヤル式）が設置されたのは、確か小学3、4年生の頃だ。

その頃私たちは借家に住んでおり、それまでは、我が家に用事のある人が大家さんの家に電話をし、それを受けた大家さんが我が家に呼びに来て、私たちは大家さんの家まで行って電話に出るという形だった。

今や固定電話があるという御家庭の方が少なくなってきており、若い世代の多くは、ダイヤル式の電話の使い方はもちろん、公衆電話の使い方も知らないようだ。

就職してからは、携帯電話が世間に出回るようになり、当初は「電波が弱いな」と言いながら手でアンテナを伸ばし、次には、二つ折りの携帯電話を手持ち無沙汰にパカパカ開いたり閉じたりしていた記憶が

ある。しかし、もはやそのような携帯はほぼ姿を消し、様々な機能が充実したスマホが当たり前となった。

また、テレビに関して、私にとっての最大の変化は、平成3年にボーナスでBSアンテナとチューナーを購入し、我が家で衛星放送を見られるようになった時だ。これによって、サッカーワールドカップアメリカ大会の地区予選・本戦をリアルタイムで見ることができるようになったのだ。（平成5年、最終予選の「ドーハの悲劇」をリアルタイムで見ている、スタジオで解説していた岡田武史氏が涙で言葉を一言も発せずただただうつつむいている映像を見ながら、私も呆然とした記憶が一番強烈に残っている。）

コロナ禍ではあるが、今年、ワールドカップがカタールで無事開催され、日本代表が本大会で活躍する姿を見られるよう期待しつつ、今日もスマホ片手に（ビールも片手に）テレビでサッカー中継を見ている。